

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

令和8年の仕事始め式にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、近藤議長、井元副議長をはじめ市議会議員各位におかれましては、新年早々ご多用の中、ご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。また、日頃より市政運営に対しまして、建設的なご議論とご提言をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。本年も引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、職員の皆さんにおかれましては、年末年始、ご家族や大切な方々と過ごされ、英気を養われ、それぞれに新たな決意を胸に、本日を迎えられたことと思います。

私は、昨年11月6日、市町村合併後第3代目の平戸市長として初登庁し、以来、2か月余り、市政の現場で皆さんとともに歩んでまいりました。そして本日、市長として初めて迎える仕事始め式に立ち、改めて、この平戸市の舵取りを担う責任の重さと、未来への大きな可能性を強く感じております。

昨年を振り返りますと、10月には「平戸市市政施行20周年記念式典」が举行され、先人たちが築いてこられた歩みと、市民の皆さまとともに歩んできた20年の重みを、改めて心に刻む機会となりました。12月には、待望の西九州自動車道「平戸インターチェンジ」が開通いたしました。福岡都市圏とのアクセス向上は、観光・物流・産業といったあらゆる分野に新たなチャンスをもたらす、大きな一歩であります。また「国民文化祭・全国障害者芸術・文化祭」が開催され、本市でも「いけばな」をはじめ「お茶会」、「文化まつり」などを通じて、平戸の歴史と文化の魅力が再認識され、国内外に改めて発信されました。

年が明け、3日には「平戸市二十歳のつどい」が開催され、本日は「消防出初式」が開催されます。未来を担う若者たちの凛とした姿、そして市民の安全・安心を守る消防関係者の皆さまの力強い行進は、新しい年の幕開けにふさわしい、希望と決意に満ちたものであります。

一方で、私たちを取り巻く社会情勢は、決して平坦ではありません。物価高騰、一次産業を取り巻く厳しい環境、人口減少、医療や交通の課題など、

地方自治体に突き付けられた課題は複雑化・深刻化しています。だからこそ今、私たちに求められているのは、「できない理由」を探すことではなく、「どうすればできるのか」を考え抜く姿勢です。

私は、これまで国政の現場で様々なことに携わってまいりました。その経験から確信していることは、地方こそが、日本の未来を切り拓く最前線であるということです。そして、自治体行政の力は、現場で市民と向き合う職員一人ひとりの判断と行動に支えられています。

今年は、重点支援地方交付金をはじめとする国の制度も最大限に活用し、物価高騰対策や市民生活支援に、スピード感をもって取り組んでまいります。同時に、一次産業の再生、「暮らし選ばれる平戸」づくり、離島や中山間地域も含めた医療・交通・防災体制の強化、そして市民の声が届く開かれた市政を、着実に前へ進めてまいります。

市政は、市長一人でも、行政だけでも前には進みません。議会、市民、そして職員の皆さんとの信頼と対話こそが、原動力です。私はこれからも、開かれた市政を進め、市民の声に耳を傾け、スピード感と誠実さをもって判断してまいります。

平戸には、歴史、自然、文化、そして人の温かさという、他には代えがたいものがあります。これらを次の世代につなぎ、「このまちに住み続けたい」「このまちで挑戦したい」と思っただけの平戸を実現することが、私たちの使命です。

令和8年が、平戸市にとって、本格的に未来へ舵を切る年となるよう、私自身が先頭に立ち、皆さんとともに歩むことを、ここにお誓い申し上げます。

結びに、本年が市民の皆さまにとって、希望に満ちた実り多き一年となりますこと、そして議会の皆さま、職員の皆さんお一人おひとりのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、仕事初め式にあたってのごあいさついたします。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。